

臼杵磨崖仏(臼杵市)

うすきまがいぶつ

ここが臼杵石仏(磨崖仏群)の入口



国宝白杵石仏

本日は、ようこそ白杵石仏をご参拝くださいました。

この白杵石仏は、すべて切り立った岩肌に彫られた

磨崖仏で、これまでは国の「特別史跡」と「重要文化財」

の二重指定を受けていましたが、保存修理工事を終えた

平成7年6月に、磨崖仏としては、全国で初めて「国宝」

の指定を受けました。

伝説によると、この白杵石仏は今から千四百年前

(飛鳥後期から奈良時代)真名野長者の名で親しまれた

「炭焼小五郎」が、亡くなった娘の供養に中国の天台山に

黄金三万両を献上して、そのお礼に來られた蓮城法師から

インドの祇園精舎の話を伺い、都から木彫りの仏師を

大勢招いて彫らせたといわれています。

ご参拝の皆様、諸願成就に是非お参り下さい。

合 掌

この建物は「臼杵石仏收藏庫」



こんな建物である



さて、ここが「ホキ石仏第二群」で第一龕と第二龕がある



白杵磨崖仏(ホキ石仏第二群)保存修理工事の概要

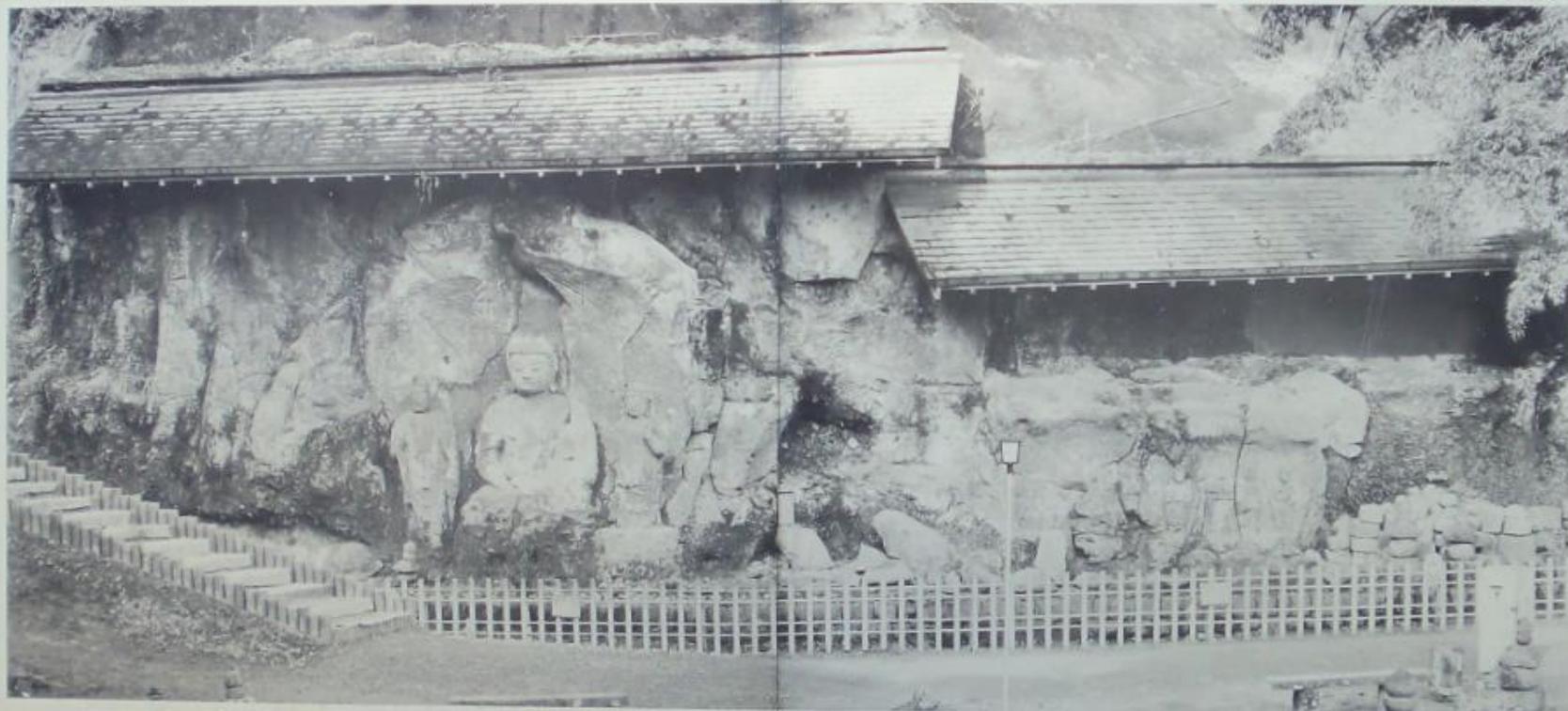
白杵磨崖仏は、阿蘇熔結凝灰岩に高肉彫りに刻まれています。この凝灰岩は軟らかく彫刻に適している反面壊れやすく、地下水や表面温度の変化によって年々風化が進んでいます。また、多くの仏像は、岩盤全体に生じた亀裂によって大小さまざまな形で母岩から割れ落ち、とくに第二龕の九品阿弥陀如来像は、そのほとんどが原形を留めないほどに壊れ落ちていました。

このため、白杵市では、国及び県から補助金の交付を受け、文化庁の指導のもとに、昭和58年度から4ヵ年にわたって保存修理を行いま

した。地下水を排除するための長さ25mの集水パイプ10本を基壇下に設置し、亀裂の生じた岩盤には、彫刻面を避けて19本のアンカーボルトを打ち込んで固定し、割れ落ちた部分を元の位置に接合し、風化した表面全体に合成樹脂を含浸させました。

白杵磨崖仏は我国における代表的な石造美術品であり、貴重な仏教遺跡でもあります。この磨崖仏を末永く後世に伝えるために、白杵市はその保存管理に努力しています。

白杵市・白杵市教育委員会



保存修理工事着手前のホキ石仏第二群

「特別史跡臼杵石佛」とある



右手前が第二龕、左手が第一龕



右手前の第二龕の「九品の弥陀像」



左手の第一龕の「阿弥陀三尊像」



反対側から見る / 左手前が第一龕、右手が第二龕



傍には沢山の石造物が並んでいる



これは鎌倉時代に、この石仏群に架けられていた上屋の礎石なのだそうだ



さて、少し進むと「ホキ石仏第一群」があり、第一龕～第四龕がある

白杵磨崖仏（ホキ石仏第一群）保存修理工事の概要

白杵磨崖仏は、軟らかい石質の阿蘇岩凝灰岩に高内彫りされています。岩そのものが軟質であるため、彫刻するには適している反面、地下水や表面温度等の変化に弱く、壊れやすいという特徴をもっています。このホキ石仏第一群は、他の石仏群に比べて、彫られている場所が高く、地下水に関しては、それほど問題はありませんでした。磨崖仏が、彫られている龕部を全七、岩盤全体に多くの亀裂を生じ、崩落の危険を伴っていました。そこで、白杵市は、亀裂を生じて崩落の危険性をばらんでいる岩盤の固定を行い、磨崖仏の安全と保存を図っていくため、国・県の補助を受け、文化庁の指導のもと昭和63年度(1988)から平成2年度(1990)までの3カ年間、保存修理工事を行いました。

工事の主な内容は、風化の進んでいる龕部に樹脂を全浸させ、石質の硬化を図る、龕下部を安定させるための石塔工事、亀裂を生じた岩盤に、彫刻面を避けて30本のアンカーボルトを打ち込んで固定、さらに、割れ落ちた仏像片の復元などを行いました。また、この修理と並行して、平成2年度から2カ年で保存修理の効果をより高めるため、防災施設としての収蔵庫（磨崖）の設置工事も行いました。

白杵市教育委員会

Preservation and Restoration of the Hoki Stone Buddhas Group I

The Usuki Cliff Buddhas are carved in high relief into soft cliffs formed during an ancient eruption of Mt. Aso. The soft quality of the cliff walls was particularly suited to carving, but this softness also caused the statues to be easily damaged by changes in the ground water level and surface temperature. In comparison to the other stone Buddha groups in the area, the Hoki Stone Buddhas Group I stand on high ground, therefore damage from ground water was minimal, however the base rock of the alcoves was badly cracked and the carvings were in danger of collapse. It was decided that efforts should be made to fill in the cracks and restore the statues. Prefectural and national monetary support was collected, and with the guidance of the Agency for Cultural Affairs, a three year (1988-1990) preservation and restoration project began.

Part of the preservation efforts included injecting a resin into the severely weathered alcoves in an effort to harden the rock. In order to stabilize the lower parts of the alcoves, masonry work was done, and further cracking of the base rock was prevented by fixing 30 anchor bolts in the cliff face. Broken or fallen parts of the statues were also restored. To increase the effectiveness of these repairs, protection and was built near the statues (1990-1991).

Usuki City Board of Education



右手前から左手に第四龕、第三龕、第二龕、第一龕と並んでいる



これは第二龕の「如来三尊像」



反対側から見る / 左手前から右手に第一龕～第四龕と並ぶ



さて、この近くに石造五輪塔があるという/右手の階段を登って行く

国指定重要文化財/特別史跡

石造五輪塔

(通称:中尾五輪塔)



大小二基とも阿蘇溶結凝灰岩製の五輪塔であり、大きい方は嘉応二年(1170年)、小さい方は承安二年(1172年)の銘が刻まれています。白杵石仏全体の造立年代を考察するうえで、重要な目安となるものであり、国の重要文化財と特別史跡に二重指定されています。

ここから130m 

 急な坂道のため、お足元には十分ご注意ください

これがその石造五輪塔



左手の五輪塔には嘉応二年(1170年)、右手の五輪塔には承安二年(1172年)の銘が刻まれているという



横から見たところ



五輪塔

特別史跡 昭和二十七年三月二十九日 指定
重要文化財 昭和二十九年九月十七日 指定

大小二基とも在銘の五輪塔である。
大きい方は、空輪および風輪の一部を欠損しているが、総高約一五一cmをはかる。荒削りだが素朴で重量感あふれる塔である。地輪北面部に「嘉応貳年（一一七〇）」の刻銘がある。小さい方は、総高一〇四cmで地輪北面部に「承安二年（一一七二）」の東面には「千部如法経願主遍照金剛」の銘がそれぞれ刻まれている。この塔は、承安二年に如法経（法華経）を納めるために造立されたことが推定される。

白井市史跡委員会

さて、この石柱には「臼杵山王山石佛」とある



これが山王山石仏/中尊は如来坐像



次に、ここには古園石仏がある



石柱には「臼杵古園石佛」とある



白杵磨崖仏（古園石仏）保存修理工事の概要

Preservation of the Furusono Stone Buddhas

白杵磨崖仏は、軟かい石質の阿蘇溶結凝灰岩に高内彫りされています。軟かい石質であるため彫刻に適している反面壊れやすく、地下水や表面温度等の変化によって風化が進行していきます。とくに、古園石仏はもともと仏像の下半部分に岩が無かったこともあり、地下水が常にしみ出し湿潤な状態となっていました。このため、コケ類が繁殖し、風化を進行させる要因の一つとなっていました。そこで、白杵市は国・県の補助を受け、文化庁の指導のもとに平成3年度(1991)から5年度までの三カ年間保存修理を行いました。

亀裂を生じた岩壁には、彫刻面を避けて27本のアンカーボルトを打ち込んで崩落を防ぐと共に、風化した露部全体に樹脂(ワッカーOH)を含浸させ石質硬化を図りました。このほか、コケ類除去、地下水排水工事、石積工事、割落した仏像片の復位などを行いました。さらに、この修理工事と併行して、平成4年度から二カ年で保存修理の効果をより高めるため、防災施設としての収蔵庫(覆屋)設置工事も行いました。

白杵市教育委員会

Soft rock (tuff) from an ancient eruption of Mt. Aso made it possible to carve the stone buddhas in a style known as high relief. This soft quality which made the rock suitable for carving, has also caused the surface of the statues to erode. The erosion is mainly due to water trapped in the statues and changes in the temperature of the rock; however, in the case of the Furusono Stone Buddhas the erosion has been further compounded by moss. The statues' lower portions are constantly seeping water, and this dampness has led to the growth of moss. This moss is the leading factor in the disintegration of the stone buddhas. To combat the erosion of the statues, Usuki City, with financial assistance from the national and prefectural governments, and the guidance of the Agency for Cultural Affairs began a three year restoration and preservation program, beginning in 1991 and ending in 1993.

Because of cracks in the bedrock 27 anchor bolts were drilled into the cliff, avoiding the carvings, thus preventing collapse of the wall. A resin (Wacker OH) was then injected into the wall of the alcove to prevent further erosion. Other preventive measures included moss removal, an underground water drainage system, masonry, and restoration of some of the statues. Paralleling this work, and in order to make the effects of the restoration last longer, a protective roof was built over the alcove in 1992.

Usuki City Board of Education



右手から見たところ



正面は中尊の大日如来像



左手から見たところ



参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%87%BC%E6%9D%B5%E7%A3%A8%E5%B4%96%E4%BB%8F>

<http://sekibutsu.com/buddha.php>

<http://www.us.oct-net.jp/~sekibutu/sekibutu.html>

<http://www.isinohotoke.net/usukitop.htm>

<http://www.kokuhoworld.com/bb49.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/site/059/>

<http://b-spot.seesaa.net/article/33767429.html>

案内図



国宝白杵石仏行事紹介

石仏特別祈願法要
………1月、5月、9月

石仏火まつり
………8月最終土曜日

白杵石仏年越し供養法要
………12月31日

国宝白杵石仏までの所要時間

白杵I-Cより……………車で5分

白杵駅より……………車で20分

白杵フェリーより……………車で15分

佐賀関フェリーより……………車で45分

うすき市内和並みより……………車で15分

高瀬鍾乳洞より……………車で25分

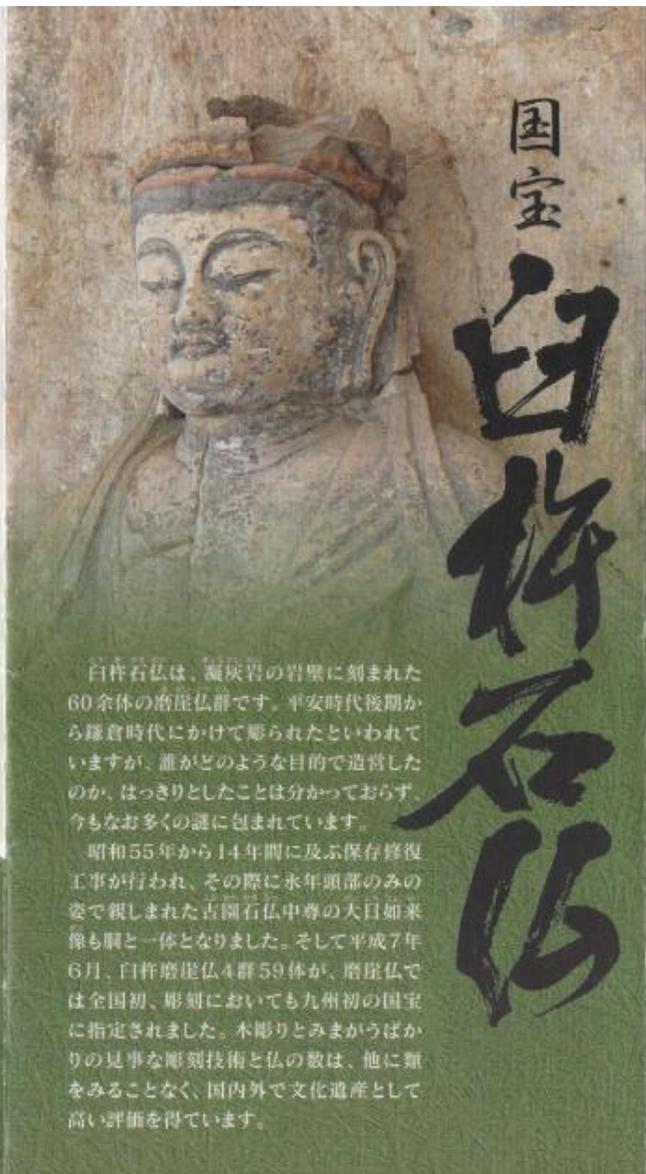
緒方原尻の滝より……………車で60分

拝観時間 6:00～19:00 (10月～3月までは18:00まで)
〒675-0064 大分県白杵市深田904-1

白杵石仏ボランティアガイドのご案内

受付時間：9時～15時 所要時間：約1時間
ガイド料：無料 申込先：石仏事務所
※前日までにご予約下さい。

白杵石仏事務所 TEL.0972-65-3300
白杵市産業観光課 TEL.0972-63-1111



白杵石仏は、凝灰岩の岩壁に刻まれた60余体の磨崖仏群です。平安時代後期から鎌倉時代にかけて彫られたといわれていますが、誰がどのような目的で造営したのか、はっきりとしたことは分かっておらず、今もなお多くの謎に包まれています。

昭和55年から14年間に及ぶ保存修復工事が行われ、その際に永年頭部のみの姿で親しまれた吉園石仏中尊の大日如来像も胴と一体となりました。そして平成7年6月、白杵磨崖仏4群59体が、磨崖仏では全国初、彫刻においても九州初の国宝に指定されました。木彫りとみまがうばかりの見事な彫刻技術と仏の数は、他に類をみることなく、国内外で文化遺産として高い評価を得ています。



1

九品の弥陀像 (ホキ石仏第二群第二篇) KUBON NO MIDAZOU



比較的小さな9体の阿弥陀如来像が刻まれている。中央の1尊だけが裳懸座に座し、彩色も鮮やかに残っているが、他の8体は欠損がひどく惜しまれている。平安末期頃の作といわれている。

2

阿弥陀三尊像 (ホキ石仏第二群第一篇) AMIDASANSONZOU



兎事な彫刻技術で彫られた、白杵石仏の中でも最も優れた石仏のひとつである。中尊阿弥陀如来像はどっしりと重感豊かで、毅然とした表情は彫技の冴えを感じさせる傑作である。平安後期頃の作。

石仏周辺の史跡

9



化粧の井戸

伝説によると髪に蝋のあった王津姫がこの井戸で髪を洗ったところきれいに髪がとれ美人になったといわれる。

10



仁王像

満月寺境内にある。膝から下が土に埋もれ、力強い作風であるが、ユーモラスな表情をしている。

11



長者長者夫妻像

石仏を造らせた人物といわれる。室町期作。

12



蓮城法師像

長者のもとで石仏を彫ったといわれる人物。

13



満月寺

長者の発願を受け蓮城法師により創建されたといわれる。

14



石仏梵鐘

平和祈願のために、昭和53年に作られたもの。

15



宝篋印塔(日光塔)

満月寺境内にある均衡のとれた美しい塔。鎌倉後期作。

16



深田の鳥居

深田入口古来の田んぼの中にぽつんと立っている。旧満月寺日吉社への参道跡と考えられている。室町期の作。

7

山王山石仏
SANNOHZANSEKIBUTSU



3体の石仏で、中尊には大きな如来座像をすえ、その左右には脇尊としての如来座像を配す珍しい形式をとっている。邪気のない童顔が心をなごませてくれる。「隠れ地蔵」とも呼ばれ、故安井曾太郎画伯が絶讃した像である。平安後期頃の作。

8

古園石仏
FURUZONOSEKIBUTSU



◀修復前の古園石仏

中尊の大日如来像は、切れ長の目に引きしまった口元が極めて端正で気品あふれる表情を作り、各方面から限らない絶讃を受けている。以前は、落ちた仏頭が仏体下の台座の上に安置され、長く人々に愛され続け、世界的にも有名であったが、保存の爲の修復に合わせて仏頭も昔日の見事な姿に復位された。平安後期頃の作。

3

地蔵十王像 (ホキ石仏第一群第四龕)
JIZOHJYUOHZOU



中尊に地藏菩薩をすえ、冥府にあつて亡者の罪を裁き救済する十王像を左右に5体ずつ配している。錫杖を持たず、右足を座し左足を立てている地藏菩薩は、古い様式で珍しく、光背の彩色唐草紋も残っている。鎌倉期の作。

4

如来三尊像 (ホキ石仏第一群第三龕)
NYORAISANSONZOU (HOKI ICLUSTER 3GALLERY)



中心の三尊は、中尊に金剛界大日如来を配し、右に釈迦如来、左に阿彌陀如来が並んでいる。三尊とも膝前が長く広いのが特徴で、如来像の台座には、願文や経巻を詰めたとあろう円や四角の孔がある。平安末期頃の作。

5

如来三尊像 (ホキ石仏第一群第二龕)
NYORAISANSONZOU (HOKI ICLUSTER 2GALLERY)



ホキ石仏第1群の中心的な存在である中尊の阿彌陀如来は、静まった顔で、眉、目、髭を墨で描き、重感あふれる姿が特徴である。三尊とも彫技は優れ、ホキ石仏第2群の阿彌陀三尊像同様の傑作で平安後期頃の作といわれる。

6

如来三尊像 (ホキ石仏第一群第一龕)
NYORAISANSONZOU (HOKI ICLUSTER 1GALLERY)



中尊に釈迦如来を刻み、童顔で親しみやすい表情で語りかけてくる。彫法はやや劣り螺髪（うねり）の刻み方など簡略化した跡がみられ、素朴な印象をあてる。平安末期頃の作。